

ME機器にまつわる 重大事故を防ぐ!

輸液の場合

新年度になり、どの職場にも新人やローテーションの方々が加わり華やいだ雰囲気になっていると思いますが、時期を同じくして発生頻度が増えるため注意しなければならないのが今回のテーマである輸液関連事故です。

本特集ではなぜ輸液関連事故が起きるのか、そして未然に防ぐにはどうしたらよいかの講義をその道のプロであるMEセンターの方々にお願いしました。また、ミスの法則に従って指示受け・実行の過程での事故対策法を加えてみました。この特集を読み終えた方々の施設での輸液関連事故発生がゼロになるように願っています。

ME機器で輸液事故が 起こるパターン



北里大学病院MEセンター部
東條圭一

1 ME機器を用いた 輸液場面での5 R

輸液に使用するME機器は、総称してポンプとよばれる。ポンプの種類は豊富で、主に薬液ボトルやガートルから輸液ルートを用いて直接輸液する場合に使用する輸液ポンプ、注射器を使用して輸液を行うシリンジポンプ、その他抗がん薬を投与するポンプや経腸栄養を行う場合に使用するポンプなどがある。さらには、ポンプを用いなくとも、輸液スピード調整のクレンメ操

作を自動的に行う輸液装置もある。大きなものでは、酸素化した血液を大動脈に送り込むような心臓の機能を代行するようなポンプもある。

これらのポンプは、薬剤や補液などを患者に正確に投与するために、集中治療室や手術室など臨床の場で広く用いられており、現代医療において欠くことのできない存在となっている。さまざまな場面で広く使用されるに伴って、ポンプに関するインシデント事例も多くなってきている。

輸液投与を安全に行うための5 Rと

して、表1の左欄のような5つがある。これを、ME機器を用いた輸液場面で考えてみると、右欄に置き換えることができる。

正しい患者、正しい薬について

ME機器を用いた輸液の場面において、「正しい患者」と「正しい薬」を確認することはすべての輸液管理と同様であることはいうまでもない。なお、ME機器を使用して輸液を行ったあとは、すみやかに輸液回路をはずし、いつでも使用できるように清掃点検を行っておくと、次に使用する場合に患者間違いや誤薬投与のトラブルが起こりにくい。

確認事項

使用後の清掃点検は済んだか

正しい用量(投与速度)について

ME機器を用いる場合には、機器に設定した投与速度(流量)ということになる。ME機器は操作者の設定を忠実

表1 輸液投与を安全に行うための5 R

1 Right patient	: 正しい患者	→	正しい患者
2 Right drug	: 正しい薬	→	正しい薬
3 Right dose	: 正しい用量	→	正しい用量(投与速度) : ME機器の流量設定と予定量設定
4 Right route	: 正しい与薬経路	→	正しい輸液回路 : 汎用セットと専用セット, シリンジサイズ
5 Right time	: 正しい与薬時間	→	正しい投与時間: 薬液残量と投与時間